

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-176338

(P2019-176338A)

(43) 公開日 令和1年10月10日(2019.10.10)

(51) Int.Cl.			F I			テーマコード (参考)	
<b>H04N</b>	<b>1/04</b>	<b>(2006.01)</b>	<b>H04N</b>	<b>1/12</b>	<b>Z</b>	<b>2H012</b>	
<b>G03G</b>	<b>15/00</b>	<b>(2006.01)</b>	<b>G03G</b>	<b>15/00</b>	<b>420</b>	<b>2H072</b>	
<b>G03B</b>	<b>27/62</b>	<b>(2006.01)</b>	<b>G03B</b>	<b>27/62</b>		<b>2H076</b>	
<b>G03G</b>	<b>15/04</b>	<b>(2006.01)</b>	<b>G03G</b>	<b>15/04</b>	<b>114</b>	<b>2H171</b>	
<b>G03G</b>	<b>21/16</b>	<b>(2006.01)</b>	<b>G03G</b>	<b>21/16</b>	<b>104</b>	<b>5C072</b>	
審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 16 頁)							

(21) 出願番号 特願2018-62948 (P2018-62948)  
 (22) 出願日 平成30年3月28日 (2018.3.28)

(71) 出願人 000001007  
 キヤノン株式会社  
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号  
 (74) 代理人 100082337  
 弁理士 近島 一夫  
 (74) 代理人 100141508  
 弁理士 大田 隆史  
 (72) 発明者 西沢 聖児  
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キ  
 ヤノン株式会社内  
 Fターム(参考) 2H012 CB12 CC01  
 2H072 AB18 BA03 CA01 JA02  
 2H076 AA02 AA06 BA17 BA24 BA35  
 BA36 BA52

最終頁に続く

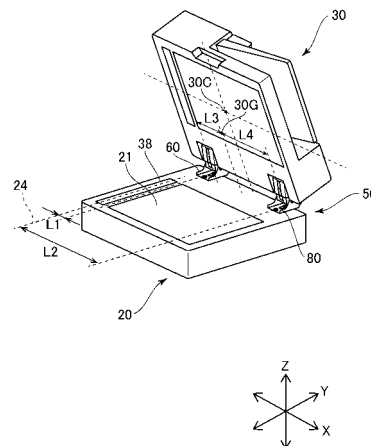
(54) 【発明の名称】 画像読取装置及び画像形成装置

## (57) 【要約】

【課題】製造コストを抑え、かつ、シート給送部が自重落下して閉じる際の衝撃力を効果的に抑制することが可能な画像読取装置及び画像形成装置を提供する。

【解決手段】画像読取装置は、シート搬送部30を画像読取部20に対して開閉可能に取り付ける開閉装置50を備えている。開閉装置50は、読取位置24から、第1距離L1離れた位置に設けられた第1開閉ユニット60と、読取位置24から第1距離よりも長い第2距離L2離れた位置に設けられた第2開閉ユニット80と、を備えている。第2開閉ユニット80はシート搬送部30の振動エネルギーを減衰させる減衰装置を備え、第1開閉ユニット60は減衰装置を備えていない。

【選択図】 図3



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

シートを搬送可能なシート搬送部と、

光源を有すると共に所定方向に移動可能な移動部と、前記光源から発せられてシートで反射された反射光を光電変換する撮像素子と、を備え、前記シート搬送部によって搬送されているシートの画像を読み取り可能な画像読取部と、

前記シート搬送部を前記画像読取部に対して開閉可能に取り付ける開閉装置と、を備え

、  
前記開閉装置は、前記シート搬送部によって搬送されているシートの画像が前記画像読取部に読み取られる位置である読取位置から、前記移動部の移動方向において第 1 距離だけ離れた位置に設けられた第 1 開閉ユニットと、前記読取位置から前記移動方向において前記第 1 距離よりも長い第 2 距離だけ離れた位置に設けられた第 2 開閉ユニットと、を備え、

前記第 2 開閉ユニットは前記シート搬送部の振動エネルギーを減衰させる減衰装置を備え、前記第 1 開閉ユニットは減衰装置を備えていない、

ことを特徴とする画像読取装置。

## 【請求項 2】

シートを搬送可能なシート搬送部と、

光源を有すると共に所定方向に移動可能な移動部と、前記光源から発せられてシートで反射された反射光を光電変換する撮像素子と、を備え、前記シート搬送部によって搬送されているシートの画像を読み取り可能な画像読取部と、

前記シート搬送部を前記画像読取部に対して開閉可能に取り付ける開閉装置と、を備え

、  
前記開閉装置は、前記移動部の移動方向において前記シート搬送部の重心位置から第 3 距離だけ離れた位置に設けられた第 1 開閉ユニットと、前記移動方向において前記重心位置から前記第 3 距離よりも長い第 4 距離だけ離れた位置に設けられた第 2 開閉ユニットと、を備え、

前記第 2 開閉ユニットは前記シート搬送部の振動エネルギーを減衰させる減衰装置を備え、前記第 1 開閉ユニットは減衰装置を備えていない、

ことを特徴とする画像読取装置。

## 【請求項 3】

前記シート搬送部の重心位置は、前記移動方向において、前記シート搬送部の中央位置よりも前記第 1 開閉ユニット側に位置している、

ことを特徴とする請求項 2 記載の画像読取装置。

## 【請求項 4】

前記第 1 開閉ユニットは、前記シート搬送部を閉位置から開位置へと向かう方向に付勢する第 1 付勢部材を備え、

前記第 2 開閉ユニットは、前記シート搬送部を閉位置から開位置へと向かう方向に付勢する第 2 付勢部材を備え、

前記第 1 付勢部材は、前記第 2 付勢部材よりも付勢力が大きくなるように形成されている、

ことを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項記載の画像読取装置。

## 【請求項 5】

シートを搬送可能なシート搬送部と、

光源を有すると共に所定方向に移動可能な移動部と、前記光源から発せられてシートで反射された反射光を光電変換する撮像素子と、を備え、前記シート搬送部によって搬送されているシートの画像を読み取り可能な画像読取部と、

前記シート搬送部を前記画像読取部に対して開閉可能に取り付ける開閉装置と、を備え

、  
前記開閉装置は、前記移動部の移動方向において異なる位置に設けられた第 1 及び第 2

開閉ユニットを備え、

前記第 1 開閉ユニットは、第 1 回動軸と、前記第 1 回動軸に前記シート搬送部が閉位置から開位置へと向かう方向のトルクを生じさせる第 1 付勢部材と、を備え、

前記第 2 開閉ユニットは、第 2 回動軸と、前記シート搬送部が閉位置から開位置へと向かう方向でかつ、前記第 1 付勢部材よりも小さいトルクを前記第 2 回動軸に生じさせる第 2 付勢部材と、前記シート搬送部の振動エネルギーを減衰させる減衰装置と、を備え、

前記第 1 開閉ユニットは、前記シート搬送部の振動エネルギーを減衰させる減衰装置を備えていない、

ことを特徴とする画像読取装置。

【請求項 6】

10

シートを搬送可能なシート搬送部と、

前記シート搬送部によって搬送されているシートの画像を読取位置にて読み取り可能な画像読取部と、

前記シート搬送部を前記画像読取部に対して軸線を中心として回転自在に支持する開閉第 1 支持部と、

前記シート搬送部を前記画像読取部に対して前記軸線を中心として回転自在に支持する、前記軸線に沿った方向における位置が前記第 1 支持部とは異なっている第 2 支持部と、を有し、

前記軸線に沿った方向における前記読取位置と前記第 1 支持部との間の距離は、前記軸線に沿った方向における前記読取位置と前記第 2 支持部との間の距離よりも短く、

20

前記第 2 支持部は、前記シート搬送部の前記軸線を中心とした回転に対して抵抗を与えるダンパを備え、

前記第 1 支持部は、前記シート搬送部の前記軸線を中心とした回転に対して抵抗を与えるダンパを備えていない、

ことを特徴とする画像読取装置。

【請求項 7】

請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項記載の画像読取装置と、

前記画像読取装置によって読み取られた画像情報に基づいてシート上に画像を形成する画像形成部と、を備えた、

ことを特徴とする画像形成装置。

30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明はシート上の画像を読取る画像読取装置及び画像形成装置に関する。

【背景技術】

【0002】

一般に、複写機等に搭載される画像読取装置には、原稿台に置かれた原稿を 1 枚ずつに分離して画像の読み取り位置へと給送する自動原稿搬送装置（以下、単に ADF : Auto Document Feeder という）が広く用いられている。また、ADF は、原稿載置台に対して開閉可能に支持されており、ADF を使用せずに手動で原稿の読み取りを行う場合は、まず、ADF を持ち上げて開き、原稿台ガラスの上に原稿を載置する。その後、ADF を閉じ、原稿の原稿面を ADF によって原稿台ガラスに押し付けた状態で、画像の読み取りを行うように構成されている。

40

【0003】

従来、このような画像読取装置において、左右一対のヒンジによって上記 ADF を原稿載置台に対して開閉可能に支持するように構成されたものがある（特許文献 1 参照）。これら左右の一対のヒンジは、いずれもヒンジフレームとヒンジベースとにバネ力を作用させるコイルバネを備えている。また、左右の一対のヒンジは、いずれもコイルバネの内部に設けられ、ADF の閉じ方向の運動に対して抵抗を与えるダンパを備えている。

【先行技術文献】

50

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特許第2832137号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

上記特許文献1に記載のように、左右一対のヒンジにコイルバネを配置すると、コイルバネのバネ力によりADFの開動作を補助することができ、また、ADFを閉じる際には、ADFの自重による落下速度をある程度抑えることができる。加えて、上記特許文献1記載の画像読取装置では、左右一対のヒンジにオイルダンパを設けているため、このオイルダンパにより、ADFを原稿台ガラスに対して静かに着地させることができるようになっている。

10

【0006】

しかしながら、上記ダンパは、部品として高価であり、このダンパの部品代によって画像読取装置の製造コストが上昇してしまうという問題があった。

【0007】

そこで、本発明は、製造コストを抑え、かつ、シート搬送部が自重落下して閉じる際の衝撃力を効果的に抑制することが可能な画像読取装置及び画像形成装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

20

【0008】

本発明に係る画像読取装置は、シートを搬送可能なシート搬送部と、光源を有すると共に所定方向に移動可能な移動部と、前記光源から発せられてシートで反射された反射光を光電変換する撮像素子と、を備え、前記シート搬送部によって搬送されているシートの画像を読み取り可能な画像読取部と、前記シート搬送部を前記画像読取部に対して開閉可能に取り付ける開閉装置と、を備え、前記開閉装置は、前記シート搬送部によって搬送されているシートの画像が前記画像読取部に読み取られる位置である読取位置から、前記移動部の移動方向において第1距離だけ離れた位置に設けられた第1開閉ユニットと、前記読取位置から前記移動方向において前記第1距離よりも長い第2距離だけ離れた位置に設けられた第2開閉ユニットと、を備え、前記第2開閉ユニットは前記シート搬送部の振動エネルギーを減衰させる減衰装置を備え、前記第1開閉ユニットは減衰装置を備えていない、ことを特徴とする。

30

【0009】

また、本発明に係る画像読取装置は、シートを搬送可能なシート搬送部と、光源を有すると共に所定方向に移動可能な移動部と、前記光源から発せられてシートで反射された反射光を光電変換する撮像素子と、を備え、前記シート搬送部によって搬送されているシートの画像を読み取り可能な画像読取部と、前記シート搬送部を前記画像読取部に対して開閉可能に取り付ける開閉装置と、を備え、前記開閉装置は、前記移動部の移動方向において前記シート搬送部の重心位置から第3距離だけ離れた位置に設けられた第1開閉ユニットと、前記移動方向において前記重心位置から前記第3距離よりも長い第4距離だけ離れた位置に設けられた第2開閉ユニットと、を備え、前記第2開閉ユニットは前記シート搬送部の振動エネルギーを減衰させる減衰装置を備え、前記第1開閉ユニットは減衰装置を備えていない、ことを特徴とする。

40

【0010】

更に、本発明に係る画像読取装置は、シートを搬送可能なシート搬送部と、光源を有すると共に所定方向に移動可能な移動部と、前記光源から発せられてシートで反射された反射光を光電変換する撮像素子と、を備え、前記シート搬送部によって搬送されているシートの画像を読み取り可能な画像読取部と、前記シート搬送部を前記画像読取部に対して開閉可能に取り付ける開閉装置と、を備え、前記開閉装置は、前記移動部の移動方向において異なる位置に設けられた第1及び第2開閉ユニットを備え、前記第1開閉ユニットは、

50

第 1 回動軸と、前記第 1 回動軸に前記シート搬送部が閉位置から開位置へと向かう方向のトルクを生じさせる第 1 付勢部材と、を備え、前記第 2 開閉ユニットは、第 2 回動軸と、前記シート搬送部が閉位置から開位置へと向かう方向でかつ、前記第 1 付勢部材よりも小さいトルクを前記第 2 回動軸に生じさせる第 2 付勢部材と、前記シート搬送部の振動エネルギーを減衰させる減衰装置と、を備え、前記第 1 開閉ユニットは、前記シート搬送部の振動エネルギーを減衰させる減衰装置を備えていない、ことを特徴とする。

【 0 0 1 1 】

また、本発明に係る画像読取装置は、シートを搬送可能なシート搬送部と、前記シート搬送部によって搬送されているシートの画像を読み取り可能な画像読取部と、前記シート搬送部を前記画像読取部に対して軸線を中心として回転自在に支持する開閉第 1 支持部と、前記シート搬送部を前記画像読取部に対して前記軸線を中心として回転自在に支持する、前記軸線に沿った方向における位置が前記第 1 支持部とは異なっている第 2 支持部と、を有し、前記軸線に沿った方向における前記読取位置と前記第 1 支持部との間の距離は、前記軸線に沿った方向における前記読取位置と前記第 2 支持部との間の距離よりも短く、前記第 2 支持部は、前記シート搬送部の前記軸線を中心とした回動に対して抵抗を与えるダンパを備え、前記第 1 支持部は、前記シート搬送部の前記軸線を中心とした回動に対して抵抗を与えるダンパを備えていない、ことを特徴とする。

10

【 発明の効果 】

【 0 0 1 2 】

本発明に係る画像読取装置によると、開閉装置は、シート搬送部によって搬送されているシートの画像を読み取る際の画像読取部の読取位置から第 1 距離だけ離れた位置に設けられた第 1 開閉ユニットと、読取位置から第 1 距離よりも長い第 2 距離だけ離れた位置に設けられた第 2 開閉ユニットと、を備えている。そして、減衰装置を第 2 開閉ユニットのみに設けたことによって、画像読取装置の製造コストを低減しつつ、シート給送部が自重落下して閉じる際の衝撃力を効果的に低減することができる。

20

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 3 】

【 図 1 】 本実施の形態に係るプリンタを示す模式図。

【 図 2 】 本実施の形態に係る画像読取装置を示す模式図。

【 図 3 】 図 2 の画像読取装置の斜視図。

30

【 図 4 】 左側の開閉ユニットの構造を示す左断側面図。

【 図 5 】 減衰装置の構造を示す模式図。

【 図 6 】 A D F の開閉角度とモーメントについての関係を示したグラフ。

【 図 7 】 開閉角度 = 1 の際の開閉ユニットを示す模式図。

【 図 8 】 開閉角度 = 2 の際の開閉ユニットを示す模式図。

【 図 9 】 開閉角度 = 3 の際の開閉ユニットを示す模式図。

【 図 1 0 】 開閉角度 = 4 の際の開閉ユニットを示す模式図。

【 図 1 1 】 右側の開閉ユニットの構造を示す左断側面図。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 4 】

40

[ プリンタの全体構成 ]

以下、本発明に係る実施の形態について、図面に基づいて説明をする。図 1 は、本実施に係る画像形成装置としてのプリンタ 1 を示す図である。図 1 に示すようにプリンタ 1 は、装置本体 2 と、装置本体 2 の上部に設けられた画像読取装置 3 とを備えており、装置本体 2 の内部にはシートに画像を形成する画像形成部 1 0 及び制御部 1 3 が設けられている。

【 0 0 1 5 】

画像形成部 1 0 は、電子写真方式の画像形成ユニット 1 4 と、定着装置 1 8 と、を備えている。画像形成ユニット 1 4 は、イエロー、マゼンタ、シアン、ブラックの各色に対応した画像形成ユニット 1 5 Y ~ 1 5 B k が中間転写体としての中間転写ベルト 1 6 に沿っ

50

て並設されており、制御部 13 からの指令により画像形成動作を実行する。詳しくは、画像形成動作の開始が指令されると、各画像形成ユニット 15 Y ~ 15 B k は、感光体である感光ドラムが回転し、ドラム表面が帯電装置によって一様に帯電される。すると、露光装置が、画像読取装置 3 又は外部のコンピュータから送信された画像データに基づいてレーザ光を変調して出力し、感光ドラムの表面を走査して静電潜像を形成する。この静電潜像は、現像装置から供給されるトナーによって可視化（現像）され、中間転写ベルト 16 上にて重畳する形で順次、転写される。

#### 【0016】

また、上記画像形成動作に並行して、シートカセット 11（もしくは不図示の手差しトレイ）に積載されたシートを画像形成部 10 の二次転写部 17 に向けて給送する給送動作が実行される。シート給送部 12 によって給送されたシートは、画像形成ユニット 15 Y ~ 15 B k の画像形成動作の進行に合わせて二次転写部 17 に搬送され、この二次転写部 17 にてトナー像がシートに転写される。未定着のトナー像が転写されたシートは、定着装置 18 へと受け渡され、ローラ対に挟持されて加熱及び加圧される。トナーがシートに対して溶融及び固着して画像が定着したシートは、排出口ローラ対等のシート排出部 19 によって、排出される。

#### 【0017】

##### 〔画像読取装置〕

次に、画像読取装置 3 の構成について、詳しく説明をする。なお、本実施の形態において、シートとは、普通紙の他にも、コート紙等の特殊紙、封筒やインデックス紙等の特殊形状からなる記録材、及びオーバーヘッドプロジェクタ用のプラスチックフィルムや布などを含むものである。また、原稿もシートの一例であり、原稿は、白紙でも、片面又は両面に画像が形成されていてもよいものとする。

#### 【0018】

画像読取装置 3 は、図 2 に示すように、原稿の画像を読み取る画像読取部 20 と、シート搬送装置としての自動原稿搬送装置（以下、単に ADF : Auto Document Feeder という）30 を備えている。また、ADF 30 を画像読取部 20 に対して開閉可能に支持する開閉装置 50（図 3 参照）を備えている。画像読取部 20 は、原稿が載置される原稿台ガラス 21 と、副走査方向（図 2 の矢印 X 方向）に移動可能な光学スキャナユニット 22 と、を備えており、固定読みと、流し読みと呼ばれる 2 種類の方法により原稿の読み取りが可能に構成されている。固定読みにおいて、画像読取部 20 は、原稿台ガラス 21 上に設置された原稿に対して、光学スキャナユニット 22 を副走査方向に一定速度で走査することで、原稿に記録された画像情報を 1 ラインずつ読み取る。また、流し読みにおいては、ADF 30 のリードローラ 43 の中心位置に読取ラインが位置する流し読み位置に光学スキャナユニット 22 が位置し、ADF 30 により搬送された原稿トレイ 31 上の原稿を光学的に読み取るようになっている。上記画像読取部 20 によって読み取られた画像データは、上述した画像形成部 10 によってシート上にトナー像として形成されたり、画像データのままコンピュータに出力されたりする。なお、以下の説明において、この流し読み時において画像読取部 20 が ADF 30 によって搬送されているシート（原稿）の画像を読み取る画像読取位置を、読取位置 24 ということとする。

#### 【0019】

より詳しくは、画像読取部 20 は、その本体部としての原稿台の内部に上記光学スキャナユニット 22 が内蔵されて構成されており、光学スキャナユニット 22 は、タイミングベルト 23 によって駆動モータ M3 と連結されたキャリッジ 22 e を備えている。移動部としてのキャリッジ 22 e は、駆動モータ M3 が回転することによって、原稿台ガラス 21 と並行に、即ち、副走査方向（所定方向）X に移動することが可能となっており、非画像読み取り時及び流し読み時は、上記流し読み位置に位置している。また、固定読み時には、駆動モータ M3 が駆動して副走査方向 X 方向へと移動する。更に、キャリッジ 22 e には、光源としての LED 22 a、ミラー 22 b、レンズ 22 c、及び撮像素子としての画像読取センサ 22 d 等が設けられている。光源から発せられてシートで反射した反射光

10

20

30

40

50

は、ミラー 2 2 b 及びレンズ 2 2 c を介して画像読取センサ 2 2 d に導かれ、この画像読取センサ 2 2 d によって光電変換されることにより原稿の画像が読み取られる。

#### 【 0 0 2 0 】

一方で、本実施の形態において、上記 A D F 3 0 は、シートを搬送可能なシート搬送部となっている。より詳しくは、A D F 3 0 は、1 枚以上の原稿で構成される原稿束 S を積載する原稿トレイ 3 1 を備えている。また、原稿トレイ 3 1 に積載された原稿束 S から原稿を送り出す給送ローラ 3 2 と、この給送ローラ 3 2 のシート搬送方向下流側に位置する分離ローラ対 3 4 , 3 5 と、を備えている。シートを積載するシート積載部としての原稿トレイ 3 1 には光学式の原稿有無検知センサ (シート有無検知部) S 1 が設けられており、原稿トレイ 3 1 上の原稿の有無が判断できるようになっている。給送ローラ 3 2 は、アーム 3 3 を介して昇降可能に構成されており、上方に位置した退避位置から下降することによって、原稿トレイ 3 1 に積載された原稿束 S の最上面 (最上位) の原稿と当接し、給送するように構成されている。給送ローラ 3 2 は、シート積載部に積載されたシートを給送するシート給送手段を構成しており、この給送ローラ 3 2 によって給送された原稿は、分離ローラ対 3 4 , 3 5 によって 1 枚ずつ分離されて給送される。

10

#### 【 0 0 2 1 】

原稿を分離搬送する分離搬送部としての分離ローラ対 3 4 , 3 5 は、分離搬送ローラ 3 4 と、分離搬送従動ローラ 3 5 とを備え、これら分離搬送ローラ 3 4 及び分離搬送従動ローラ 3 5 によって分離ニップを形成している。分離搬送ローラ 3 4 は、給送ローラ 3 2 と駆動源を共にしており、給送モータ M 1 が回転駆動することによって、上記給送ローラ 3 2 及び分離搬送ローラ 3 4 は回転駆動する。分離搬送従動ローラ 3 5 は、分離搬送ローラ 3 4 と対向して配置されており、分離搬送ローラ 3 4 側に押圧されている。また、分離搬送従動ローラ 3 5 は、分離搬送ローラ 3 4 より僅かに摩擦が少ないゴム材等から形成されており、分離搬送ローラ 3 4 と協働して、給送ローラ 3 2 によって給送される原稿を 1 枚ずつ捌いて給送する。なお、分離ローラ対 3 4 , 3 5 のシート搬送方向下流側には、分離後センサ S 2 が設けられており、この分離後センサ S 2 によって分離ニップを原稿が通過したタイミングが検出されている。

20

#### 【 0 0 2 2 】

分離ローラ対 3 4 , 3 5 によって分離された原稿は、レジストレーションローラ対 3 6 へと搬送され、停止した状態のレジストレーションローラ対 3 6 に対して原稿が突き当てられる。これにより原稿にはループ状のたわみが形成され、原稿の搬送における斜行が補正され、その先端位置が揃えられる。レジストレーションローラ対 3 6 の下流側には、レジストレーションローラ対 3 6 を通過した原稿を流し読みガラス 3 8 へと搬送する搬送路が配置されており、この搬送路に送られた原稿は、読み取り上流ローラ対 3 7 によって読取位置 2 4 へと搬送される。読取位置 2 4 では、原稿の表面は L E D 2 2 a により照射され、その反射光は、ミラー 2 2 b で屈曲されると共にレンズ 2 2 c を介して画像読取センサ 2 2 d に導かれ、原稿の表面画像が 1 ラインずつ読み取られる。

30

#### 【 0 0 2 3 】

流し読みガラス 3 8 と対向配置されたリードローラ 4 3 の原稿搬送方向下流には読み取り下流ローラ対 3 9 が設けられている。この読み取り下流ローラ対 3 9 により搬送された原稿は、原稿の表面画像のみを読み取る場合には排出口ローラ対 4 0 によって排出トレイ 4 1 に排出される。また、流し読みガラス 3 8 と読み取り下流ローラ対 3 9 との間には、流し読みガラス 3 8 からシートをすくい上げるためのジャンプ台 4 2 が設けられている。更に、上述したレジストレーションローラ対 3 6 、読み取り上流ローラ対 3 7 、読み取り下流ローラ対 3 9 及び排出口ローラ対 4 0 は駆動源を共にしており、搬送モータ M 2 が回転駆動することによってこれらのローラ対は回転駆動する。原稿が原稿トレイ 3 1 上に複数枚、載置されている場合には、画像読取装置 3 は、最終原稿の読取及び排出トレイ 4 1 への排出が終了するまで上述の処理を繰り返す。

40

#### 【 0 0 2 4 】

[ 開閉装置の構成 ]

50

ついで、A D F 3 0の開閉装置50の構成について、詳しく説明をする。開閉装置50は、図3に示すように、画像読取装置3の前奥方向(図3のY方向、主走査方向と同じ)における奥側において、左右一対の開閉ユニット60, 80を備えて構成されている。これら左右の開閉ユニット60, 80の内、右側の開閉ユニット80は、図4に示すように、画像読取部20に対して固定されるヒンジベース81と、A D F 3 0に対して固定されたヒンジフレーム82と、ヒンジアーム83を備えてヒンジ機構を構成している。そして、ヒンジフレーム82が回転軸(第2回転軸)84を中心にヒンジベース81に対して回転可能に構成されていることにより、A D F 3 0が画像読取部20に対して回転軸84の軸線を中心として回転可能に支持されるようになっている。

【0025】

また、上記ヒンジアーム83は、一端部がヒンジベース81に対して回転軸84を中心に回転可能に取り付けられ、他端部にはヒンジフレーム82が軸支されるリフト軸85が設けられている。更に、ヒンジフレーム82のリフト軸85が設けられた側とは反対側の端部には、高さ調整ネジ86が設けられている。この高さ調整ネジ86は、その先端がヒンジアーム83と当接しており、この高さ調整ネジ86を進退させることによって、リフト軸85を中心にヒンジフレーム82をヒンジアーム83に対して回転させることができるようになっている。そして、上記ヒンジフレーム82をヒンジアーム83に対して回転可能に構成することによって、A D F 3 0の流し読みガラス38に対する高さ位置を調整可能としている。

【0026】

更に、上記開閉ユニット80は、ヒンジベース81と、ヒンジフレーム82との間にA D F 3 0の開閉動作を補助する開閉補助ユニット90を備えている。この開閉補助ユニット90は、ケース支持軸93を介してヒンジベース81に対して回転自在に取り付けられたスライダ91と、トルク軸94を介してヒンジフレーム82に対して回転自在に取り付けられたヒンジケース92と、を備えている。これらスライダ91とヒンジケース92とは、上記A D F 3 0の開閉に合わせて相対的にスライド移動可能に嵌合していると共に、スライダ91とヒンジケース92の間には、圧縮バネ95及びオイルダンパ96が介在している。

【0027】

より詳しくは、付勢部材としての上記圧縮バネ95は、一端部がヒンジケース92に保持されかつ、他端部がスライダ91に保持され、これらヒンジケース92及びスライダ91の間に縮設されている。また、オイルダンパ96は、オイルダンパ固定ネジ97によってヒンジケース92に固定されている。このオイルダンパ96は、図5に示すように内部にオイルが充填されたダンパケース96aと、ダンパスライダ96bと、を備えて構成されている。このダンパスライダ96bは、一端部が上記ダンパケース96aから突出してスライダ91と当接する当接部96b1となっており、他端部がダンパケース96aの内部にてスライドするピストン部96b2となっており、また、ダンパケース96a内のピストン部96b2を挟んで当接部96b1とは反対側の油室内には、ダンパスプリング96cが縮設されている。更に、上記ピストン部96b2には、ピストン部96b2によって区画されたダンパケース96a内の油室間を連通するポート96b3が形成されている。ダンパスライダ96bがスライダ91に押圧されてC方向に移動すると、上記ダンパスプリング96cの弾性力及びポート96b3をオイルが通過する際の抵抗力によって、減衰力が生じる。

【0028】

A D F 3 0を閉位置から開位置に開ける場合、上記開閉補助ユニット90は、圧縮バネ95の付勢力によってA D F 3 0が閉位置から開位置へと向かう方向のヒンジトルクを生じさせ、ユーザーによるA D F 3 0の開動作を補助している。また、A D F 3 0を開位置から閉位置へと閉じる場合、上記圧縮バネ95及びオイルダンパ96からの抗力により、A D F 3 0の自重による下降速度を低減させて、ゆっくりと閉めることができるように補助している。

10

20

30

40

50



## 【 0 0 2 9 】

図 6 は A D F 3 0 の開閉角度とモーメントについての関係性を示した図である。実線は開閉装置（ヒンジ）の圧縮バネによるモーメントを示し、点線は A D F 3 0 の自重によるモーメントを示している。ここで、図 6 中の開閉角度 1 ~ 4 の内、開閉角度 = 1 の場合、図 7 に示すように、スライダ 9 1 は B 方向に最も移動しており、また、この時、ダンパスライダ 9 6 b の当接部 9 6 b 1 はスライダ 9 1 から離間している。

## 【 0 0 3 0 】

開閉角度 = 2 の状態は、図 8 に示すように、スライダ 9 1 が図 7 の状態から A 方向に移動した状態であり、この時、ダンパスライダ 9 6 b の当接部 9 6 b 1 はスライダ 9 1 から離間している。開閉角度が角度 2 よりも小さくなるまで A D F 3 0 が閉じられると（ < 2 ）、左右の開閉ユニット 6 0 , 8 0 の圧縮バネの付勢力によって生じる回動軸周りのモーメントよりも A D F 3 0 の自重による回動軸周りのモーメントの方が大きくなる。このため、A D F 3 0 は自重により自然に閉じる自重落下状態となる。

## 【 0 0 3 1 】

一方、開閉角度 が 2 < 1 の範囲では、左右の開閉ユニット 6 0 , 8 0 の圧縮バネの付勢力によって生じる回動軸周りのモーメントよりも A D F 3 0 の自重による回動軸周りのモーメントの方が小さくなる。また、開閉ユニット 6 0 , 8 0 の摺動部分における摩擦なども相俟って、A D F 3 0 は、その開閉角度が維持されるフリーストップ状態となる。

## 【 0 0 3 2 】

開閉角度 = 3 の状態は、図 9 に示すように、スライダ 9 1 が図 8 の状態から更に A 方向に移動した状態であり、この時、ダンパスライダ 9 6 b の当接部 9 6 b 1 がスライダ 9 1 と当接する。つまり開閉角度 = 3 の状態からオイルダンパ 9 6 が作動し始め、開閉角度 = 3 の位置から A D F 3 0 が閉じる方向と逆の抵抗力がオイルダンパ 9 6 の作用により生じる。このため、A D F 3 0 の下降速度が小さくなり、静かに着地する。

## 【 0 0 3 3 】

開閉角度 = 4 の状態は、図 1 0 に示すように、A D F 3 0 が閉位置（即ち、開閉角度 = 0 °）の状態であり、スライダ 9 1 が図 9 の状態から更に A 方向に移動している。なお、この閉位置から A D F 3 0 を開く場合は、ダンパスライダ 9 6 b はスライダ 9 1 と当接しているだけであるため抵抗力は生じない。つまり、オイルダンパ 9 6 が作動するのは A D F 3 0 を閉じる場合のみである。

## 【 0 0 3 4 】

## [ 左側開閉ユニットの構成 ]

ついで、第 1 支持部としての左側の開閉ユニット 6 0 の構成について詳しく説明をする。図 1 1 に示すように、左側の開閉ユニット 6 0 は、右側の開閉ユニット 8 0 と同様に、画像読取部 2 0 に対して固定されるヒンジベース 6 1 と、A D F 3 0 に対して固定されたヒンジフレーム 6 2 と、ヒンジアーム 6 3 を備えてヒンジ機構を構成している。そして、ヒンジフレーム 6 2 が回動軸（第 1 回動軸）6 4 を中心にヒンジベース 6 1 に対して回動可能に構成されていることにより、A D F 3 0 が画像読取部 2 0 に対して回動可能に支持されるようになっている。

## 【 0 0 3 5 】

また、上記ヒンジアーム 6 3 は、一端部がヒンジベース 6 1 に対して回動軸 6 4 を中心に回動可能に取り付けられ、他端部にはヒンジフレーム 6 2 が軸支されるリフト軸 6 5 が設けられている。更に、ヒンジフレーム 6 2 のリフト軸 6 5 が設けられた側とは反対側の端部には、高さ調整ネジ 6 6 が設けられている。この高さ調整ネジ 6 6 は、その先端がヒンジアーム 6 3 と当接しており、この高さ調整ネジ 6 6 を進退させることによって、リフト軸 6 5 を中心にヒンジフレーム 6 2 をヒンジアーム 6 3 に対して回動させることができるようになっている。そして、上記ヒンジフレーム 6 2 をヒンジアーム 6 3 に対して回動可能に構成することによって、A D F 3 0 の流し読みガラス 3 8 に対する高さ位置を調整可能としている。

10

20

30

40

50

## 【 0 0 3 6 】

更に、上記開閉ユニット 6 0 は、ヒンジベース 6 1 と、ヒンジフレーム 6 2 との間に A D F 3 0 の開閉動作を補助する開閉補助ユニット 7 0 を備えている。この開閉補助ユニット 7 0 は、ケース支持軸 7 3 を介してヒンジベース 6 1 に対して回動自在に取り付けられたスライダ 7 1 と、トルク軸 7 4 を介してヒンジフレーム 6 2 に対して回動自在に取り付けられたヒンジケース 7 2 と、を備えている。これらスライダ 7 1 とヒンジケース 7 2 とは、上記 A D F 3 0 の開閉に合わせて相対的にスライド移動可能に嵌合していると共に、スライダ 7 1 とヒンジケース 7 2 との間には、圧縮バネ 7 5 が介在している。

## 【 0 0 3 7 】

[ 左右の開閉ユニットの構成の違い ]

10

ついで、左右の開閉ユニット 6 0 , 8 0 の構成の違いについて説明をする。図 2 に示すように、A D F 3 0 は、原稿読取部付近にローラやそれを駆動する駆動源などが集中しており、構造物が多くなっている。その結果、A D F 3 0 の重心位置 3 0 G は、図 3 に示すように、原稿読取部側に寄った位置となっている。より詳しくは、上記 A D F 3 0 の重心位置 3 0 G は、A D F 3 0 の前奥方向において、A D F 3 0 の中央位置 3 0 C よりも奥側に位置している。また、A D F 3 0 の左右方向（図中 X 方向、副走査方向に同じ）において、A D F 3 0 の中央位置 3 0 C よりも左側開閉ユニット側（第 1 開閉ユニット側）に位置している。

## 【 0 0 3 8 】

このため、上記左側開閉ユニット 6 0 の圧縮バネ 7 5 は、第 2 支持部としての右側開閉ユニット 8 0 の圧縮バネ 9 5 に比して、その付勢力（バネ力、バネ定数）が大きくなるように設定されている。そして、左右の開閉ユニット 6 0 , 8 0 において、上記圧縮バネ 7 5 , 9 5 の付勢力によって発生する回動軸 6 4 , 8 4 周りのヒンジトルクは、重心に近い左側開閉ユニット 6 0 の方が強く、重心から遠い右側開閉ユニット 8 0 が弱くなっている。

20

## 【 0 0 3 9 】

また、A D F 3 0 の回動軸線を中心とした回動に対して抵抗を与えかつ、A D F 3 0 の振動エネルギーを吸収するオイルダンパは高価であるため、本実施の形態において、開閉装置 5 0 は、左右の開閉ユニット 6 0 , 8 0 の内、一方側にしか取り付けられていない。より詳しくは、本実施の形態においては、オイルダンパは、右側開閉ユニット 8 0 に対してのみ取り付けられ、左側開閉ユニット 6 0 に対しては取り付けられていない。以下、オイルダンパ 9 6 が右側開閉ユニット 8 0 に対してのみ取り付けられる理由について説明をする。

30

## 【 0 0 4 0 】

A D F 3 0 は、上記ヒンジトルクの反力により変形することで流し読みガラス 3 8 や原稿台ガラス 2 1 への接地ができなくなると画像の読取精度に影響が出るため、この読取精度に影響が出ないように剛性が設計されている。具体的には、本実施の形態では、A D F 3 0 は、より大きな反力を開閉ユニットから受ける左側の剛性が高くなるように構成されている。

## 【 0 0 4 1 】

40

ここで、A D F 3 0 が自重落下して閉じられた際に、剛性の低い右側は、剛性の高い左側に対してより大きく振動することとなる。即ち、A D F 3 0 が自重落下し、A D F 3 0 と画像読取部 2 0 とが衝突した際に発生する衝撃力が、剛性の低い A D F 3 0 の右側の方が剛性の高い左側よりも大きくなる。このため、左側開閉ユニット 6 0 についてはオイルダンパを設けず、右側開閉ユニット 8 0 に対してのみオイルダンパ 9 6 を設けることにより、画像読取装置 3 の製造コストを低減しつつ、A D F 3 0 が接地する際の衝撃力を効果的に減衰することができるようになっている。

## 【 0 0 4 2 】

以下の表 1 は、A D F 3 0 の左右方向中央でかつ前奥方向前端部に加速度測定器を取り付けた状態で A D F 3 0 を自重落下させた際の衝撃値を、ダンパの有無の条件を変更して

50

測定した際の測定結果である。表 1 から分かるように、左右の開閉ユニット 60, 80 のいずれにもオイルダンパを設けた例が最も衝撃値が低く、ついで右側開閉ユニット 80 にのみオイルダンパを設けた例、左側開閉ユニット 60 にのみオイルダンパを設けた例の順で衝撃値が低くなっている。

【 0 0 4 3 】

【 表 1 】

	ダンパー		
	有	無	有
左開閉ユニット	有	有	無
右開閉ユニット	有	有	無
衝撃値 (G)	0.94	2.99	6.85
	0.90	2.91	5.03
	0.90	3.14	5.39
平均	0.91	3.01	5.76

10

【 0 0 4 4 】

このように、右側開閉ユニット 80 にのみオイルダンパ 96 を設ける構成とすることによって、画像読取装置 3 の製造コストとバランスをとりつつ、ADF 30 が接地する際の衝撃力を効果的に低減することができる。また、右側開閉ユニット 80 のみしか減衰装置としてのオイルダンパ 96 を備えていないため、左右両方の開閉ユニットにオイルダンパを備えている場合に比して、オイル漏れ等のトラブルがオイルダンパに生じる可能性を低減することができる。

20

【 0 0 4 5 】

なお、上記左側開閉ユニット 60 は、図 3 に示すように、移動部としてのキャリッジ 22e の移動方向（副走査方向、左右方向）において読取位置 24 から第 1 距離 L1 だけ離れた位置に設けられた第 1 開閉ユニットといえる。また、右側開閉ユニット 80 は、読取位置 24 から移動方向において第 1 距離 L1 よりも長い第 2 距離 L2 だけ離れた位置に設けられた第 2 開閉ユニットといえることができる。ここでのキャリッジ 22e の移動方向は、本実施形態では、回動軸 64, 84 軸線に沿った方向に相当する。

【 0 0 4 6 】

更に、別の見方をすれば、上記左側開閉ユニット 60 は、キャリッジ 22e の移動方向においてシート搬送部としての ADF 30 の重心位置 30G から第 3 距離 L3 だけ離れた位置に設けられた第 1 開閉ユニットといえることができる。また、右側開閉ユニット 80 は、移動方向において重心位置 30G から第 3 距離 L3 よりも長い第 4 距離 L4 だけ離れた位置に設けられた第 2 開閉ユニットといえることができる。

30

【 0 0 4 7 】

加えて、上記左側開閉ユニット 60 は、第 1 回動軸 64 と、第 1 回動軸 64 に ADF 30 が閉位置から開位置へと向かう方向のトルクを生じさせる第 1 付勢部材 75 と、を備えた第 1 開閉ユニットといえることができる。また、右側開閉ユニット 80 は、第 2 回動軸 84 と、ADF 30 が閉位置から開位置へと向かう方向でかつ、第 1 付勢部材 75 よりも小さいトルクを第 2 回動軸 84 に生じさせる第 2 付勢部材 95 と、を備えた第 2 開閉ユニットといえることができる。そして、本実施の形態では、第 2 開閉ユニット 80 はシート搬送部としての ADF 30 の振動エネルギーを減衰させる減衰装置 96 を備え、第 1 開閉ユニット 60 は減衰装置を備えていない。なお、上記第 1 ~ 第 4 距離 L1 ~ L4 は、それぞれ、左右の開閉ユニット 60, 80 の左右方向の中心位置を基準に計測した距離である。

40

【 0 0 4 8 】

また、上述した実施の形態では、上記左右の開閉ユニット 60, 80 の圧縮バネ 75, 95 を一つのスプリングによって構成したがこれに限らず、複数のスプリングによって構成しても良い。例えば、右側の開閉ユニット 60 の圧縮バネを複数のスプリングを並列して接続し、左側の開閉ユニット 80 の圧縮バネよりもばね定数を大きくなるように構成しても良い。また、左右の開閉ユニット 60, 80 にヒンジトルクを付与する付勢部材は、圧縮バネではなく、ねじりコイルばねなど、回動軸にトルクを付与できるものであればど

50

のような付勢部材によって構成されても良い。

【0049】

更に、本実施の形態では、開閉装置50を左右の2つの開閉ユニット60, 80によって構成したが、複数の開閉ユニット、例えば、3つ以上の開閉ユニットを備えても良い。また、上記左右の開閉ユニット60, 80は、ADF30の中央位置30Cを挟んで左右に分かれて構成されているが、例えば、開閉ユニットが3つ以上ある場合など、第1及び第2開閉ユニットが中央位置30Cを挟んで左右方向で同じ側に位置しても良い。

【0050】

更に、上述した実施の形態では、減衰装置としてオイルダンパを使用した。本発明はこれに限らず、どのようなダンパ装置を使用しても良い。また、光学スキャナユニット22は、CCD方式や、CIS方式などどのような方式を採用しても良く、このため撮像素子としてCCDや、CMOSなどどのような撮像素子を用いても良い。加えて、例えばCIS方式などの方式の場合、この撮像素子は、移動部としてのキャリッジに設けられていなくても良い。

10

【0051】

また、既述のいずれの形態においても、電子写真方式のプリンタ100を用いて説明したが、本発明はこれに限定されない。例えば、ノズルからインク液を吐出させることでシートに画像を形成するインクジェット方式の画像形成装置にも本発明を適用することが可能である。

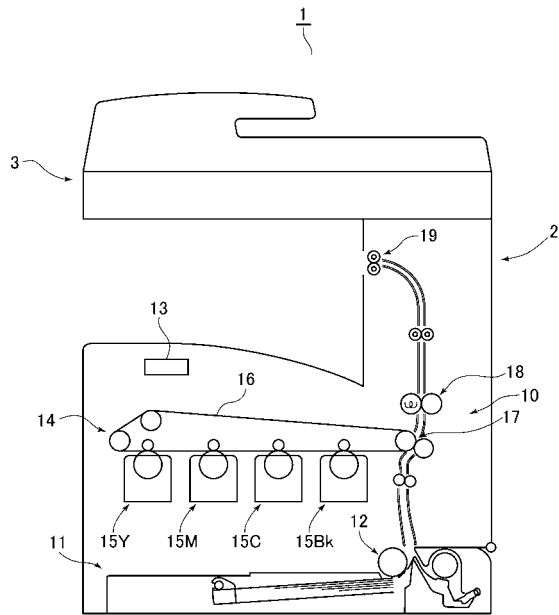
【符号の説明】

20

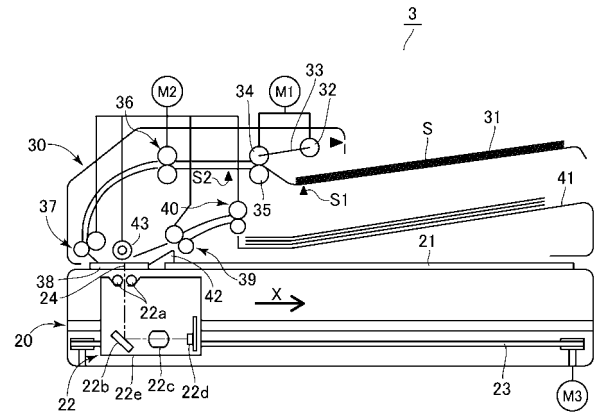
【0052】

3：画像読取装置、20：画像読取部、22a：光源、22d：撮像素子（画像読取センサ）、22e：移動部（キャリッジ）、24：読取位置、30：シート搬送部（ADF）、30G：重心位置、30C：中央位置、50：開閉装置、60：第1開閉ユニット（左側開閉ユニット）、64：第1回動軸、75：第1付勢部材（圧縮バネ）、80：第2開閉ユニット（右側開閉ユニット）、84：第2回動軸、95：第2付勢部材（圧縮バネ）、96：減衰装置（オイルダンパ）

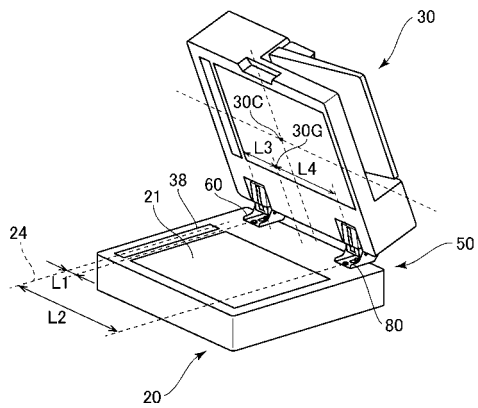
【図 1】



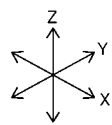
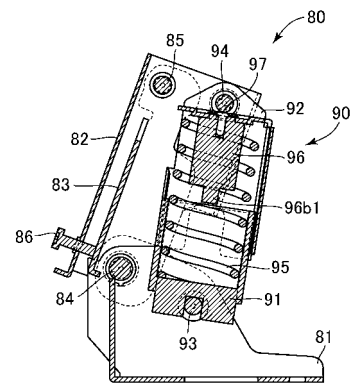
【図 2】



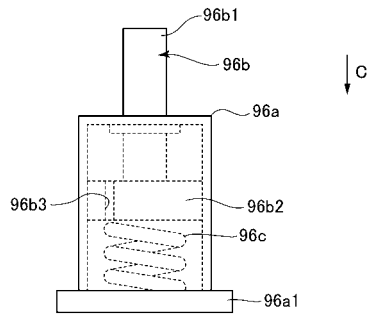
【図 3】



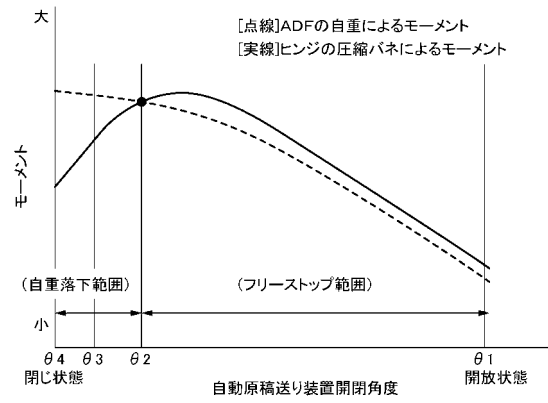
【図 4】



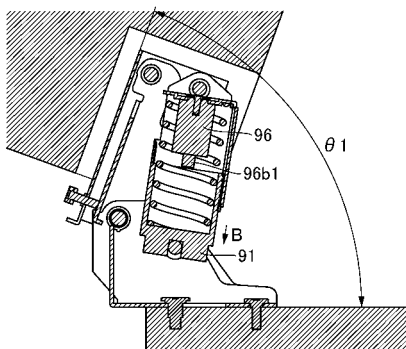
【図 5】



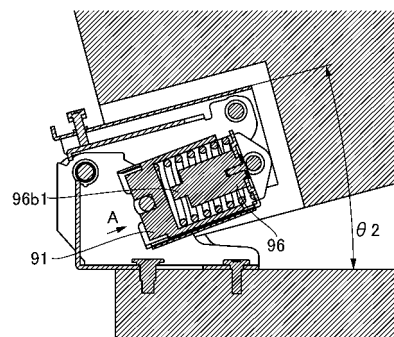
【図 6】



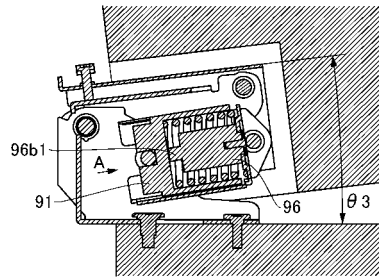
【図 7】



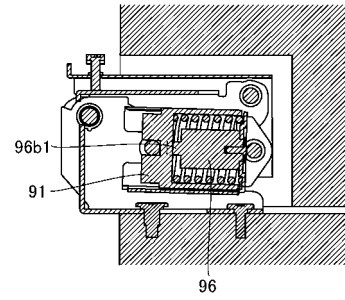
【図 8】



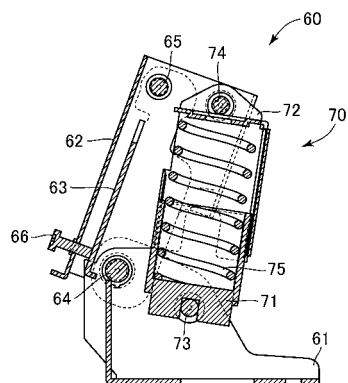
【 図 9 】



【 図 10 】



【 図 11 】



---

フロントページの続き

F ターム(参考) 2H171 FA01 FA21 FA28 GA33 HA10 HA11 HA15 HA19 HA23 QA04  
QA08 QA24 QC03 SA11 SA14 SA18 SA19 SA22 SA26 WA17  
WA23 WA26  
5C072 AA01 BA02 BA20 CA05 DA02 DA04 EA04 LA08 NA01 XA01